

広島市植物公園のチョウ（蝶）の記録

三輪昇*、斉藤淳、山本昌生

はじめに

日本は北海道から九州、沖縄まで南北 2,500 km にわたる島国で国土の 67% が森林におおわれ、生物相も豊かである。この日本に 230 種以上（参考文献 1）あるいは 250 種以上（参考文献 2）のチョウが棲むと言われている。

広島市植物公園（以下、当園）にはどのくらいのチョウが生息しているのか調査を行った。

日本全体に比べわずかに 18.3 ヘクタールの広さしかない当園は、公園としての性格上定期的に害虫駆除のための薬剤散布が行われ、また頻繁に下草刈りが行われ、チョウを含む昆虫達にとって決して住みよい場所とは言えないと思われる。

他方、瀬戸内海国立公園の一部を成す極楽寺山の麓に位置し、四季を通じて花の絶えない当園を目指して集ってくるであろうチョウ達にとって当園は、生活の場、収餌の場としての大切な存在であると思われる。

昭和 61 年（1986）4 月から昭和 63 年（1988）3 月までの 2 年間にわたり、二月会（植物公園職員から成る自主研究グループ）により行われた園内の昆虫及び野鳥の観察調査報告がある（広島市植物公園栽培記録第 10 号、平成元年 3 月）。この調査の主目的は、「植物の害虫の効果的防除法の確立と野鳥の園内誘導法を検討するための観察」であった。その結果、多岐にわたる昆虫及び野鳥の観察記録が報告されているが、植物に害を及ぼすと考えられる害虫のほとんどがチョウ及びガの類であるとの結論となっている。そして、そのリストから拾い出したチョウの種類は昭和 61 年度、62 年度合計して 19 種であった。

この調査の 20 年後（2006 年）の現在の状況はどうなっているのか、また、薬剤散布、下草刈り、四季を通じて花のある当園、いわばチョウ達にとって相矛盾する環境下にあると思われる当園の実情はどうなのかを調査したいと思い、2003 年春から本格的にチョウの記録を撮ることを開始し、一眼レフカメラによるカラー撮影（スライドフィルムを使用）を行った。

調査結果

2006 年 10 月 10 日現在 54 種が確認された。20 年前の 19 種の観察報告とは大きく異なり、カラー写真での記録が 50 種を超えたことを一つの区切りとして本報告書をまとめた（表）。なお、各種のカラー写真を収めたアルバムは、何時でも管理課企画広報係で閲覧できる。

1 248 種といわれる日本産のチョウのうち、54 種、実に 21% 以上が、また広島県内で記録されたチョウ 130 種のうち 42% が、わずか 18.3 ヘクタールの当園内で記録されたことは予想外に多かった。

2 樹上高くを舞い、降りて来ないチョウ、小さくて記録者の目に分別できにくいシジミ、セセリの仲間など、観察は出来たが記録に留められていない種が多々あり、当園のチョウは 60 種を超えると推定される。今後も調査を継続する予定である。

3 渡りをするチョウで有名なアサギマダラも当園で記録できた（写真 1）。



写真 1. アサギマダラ（2003 年 10 月 19 日撮影）

4 アゲハチョウ科は、日本産で 17 種といわれ、その内 10 種、実に 59% が当園で記録されている。

5 広島県でも発見例の少ない、ミカドアゲハ（分布：紀伊半島南部、四国南岸部、山口県西部、南西諸島（参考文献 1、2）（写真 2））やクロセセリ（分布：山口県西部、九州、南西諸島（参考文献 1）、山口県、九州、南西諸島（参考文献 2）（写真 3））を当園で記録できたことは、地球温暖化の実情を示す証拠と言える。

なお、種の同定に当っては広島市森林公園こんちゅう館の学芸員坂本充氏の多大なる助言をいただいたことをここに報告し、感謝申し上げる次第です。

*広島市植物公園植物友の会会員



写真 2. ミカドアゲハ (2006 年 5 月 25 日撮影)



写真 3. クロセセリ (2006 年 9 月 17 日撮影)

参考文献

- 1:「検索入門チョウ①②」保育社
- 2:「ヤマケイポケットガイド⑨チョウ・ガ」山と溪谷社

表. 広島市植物公園内で記録したチョウ (2003 ~ 2006)

(1) アゲハチョウ科			
ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	コムスジ	<i>Neptis sappho</i>
キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	ホシミスジ	<i>Neptis pryri</i>
アゲハ (ナミアゲハ)	<i>Papilio xuthus</i>	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>
クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>
オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>
ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>
カラスアゲハ	<i>Papilio bianor</i>	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>
モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i>	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>
アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i>	コムラサキ	<i>Apatura metis</i>
ミカドアゲハ	<i>Graphium doson</i>	ゴマダラチョウ	<i>Hestina persimilis</i>
	以上 10 種		以上 15 種
(2) シロチョウ科		(5) テングチョウ科	
キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	テングチョウ	<i>Libythea celtis</i>
モンキチョウ	<i>Colias erate</i>		以上 1 種
ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>	(6) マダラチョウ科	
モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>
スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>		以上 1 種
	以上 5 種	(7) ジャノメチョウ科	
(3) シジミチョウ科		ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>
ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>
ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicilic</i>
ムラサキツバメ	<i>Narathura bazalus</i>	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>
コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitchii</i>
トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>	ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope nipponica</i>
ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>
ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	コジャノメ	<i>Mycalesis francisca</i>
ヤマトシジミ	<i>Pseudoizeeria maha</i>		以上 8 種
ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>	(8) セセリチョウ科	
ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>
	以上 10 種	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavum</i>
(4) タテハチョウ科		チャバネセセリ	<i>Polopidas mathias</i>
メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana</i>	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>
ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>	クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia</i>
イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla</i>		以上 5 種
アサマイチモンジ	<i>Limenitis glorifica</i>		合計 54 種